

報 告

近畿病院図書館協議会 第41回勉強会

研修部

日 時：2016年1月30日（土）13:15～16:30
場 所：京都桂病院図書室
テーマ：雑誌の製本と補修
参加者数：11名（会員11名）

2007年より行っている藤原孝先生の補修・製本の講習会も3度目の開催を迎えることができた。既に会誌「病院図書館」27巻3号、33巻2号に先生の講義内容や報告が掲載されているので、まだご存知ない方はぜひご覧いただきたい。

藤原先生の講義は毎回参加者から大変好評で、今回も勉強会開催案内から1カ月以内に定員に達した。参加者11人中8名が初めての参加であった。新たに先生の技を伝授された方が増えて嬉しく思っている。

今回は、はじめに各背の雑誌を堅い表紙に補強する方法を教えていただいた。まず、表紙と裏表紙を外し、ボール紙にクロスを貼る。雑誌本体には見返し紙を貼りつける。次に背芯を背クロスに貼る。背芯の両側に表紙を貼りつけて雑誌本体と貼り合わせ、みぞを付けて完成である。概要だけ書いてみると簡単そうであるが、分厚いボール紙を表紙のサイズに切ったり、糊を空気が入らないように上手に貼り、もし本体がばらばらになってしまったら糸で綴じたりと細かな作業が多く、初参加の方に限らず全員が無言で真剣に取り組んでいた（図1）。

そのあとは、「Nature」「BMJ」のようなホックキス綴じの雑誌を糸で綴じ、見返し紙と堅い

表紙を付けて全体をクロスでコーティングする製本方法にも挑戦した。また一方で、ご自分の文庫本を堅い表紙付きの本に製本されたり、破損した図書を補修する参加者もおられた。

先生は毎回持ち帰って復習できるように材料を余分に用意して持たせてくださる。何事も一回だけで技術を身につけるのは困難であるが、何度も練習することで、必ず技術は高めることができる。参加者の皆さんにはぜひ持ち帰った材料を活用して復習していただきたい。

先生のお話によると、国内の製本の講師は先生を含めわずかとなり、全国各地から講師に呼ばれていらっしゃるとのことであった。こうして何度も講義いただけるのはとてもありがたいことである。今後も講義いただき、先生の技を次に伝えていきたい。



図1 講義風景

（文責：洛和会音羽病院図書室 藤原純子）